

国土交通省北海道運輸局主催「貸切バス需給可視化実証業務」

キックオフ・説明会を開催

～旅行会社・バス事業者が参加し、北海道における実証業務が本格始動～

株式会社 MIRAH00P は、国土交通省北海道運輸局が主催する「貸切バス需給可視化実証業務」において、貸切バス受発注プラットフォーム「mobitas」の提供会社として参画しています。

2026 年 7 月 8 日、旅行会社・バス事業者・関係機関が参加するキックオフおよび説明会を開催し、北海道における貸切バス需要の可視化と受発注業務の DX 化に向けた実証業務が本格的にスタートしました。

【本実証業務概要】

北海道では、観光需要の回復やクルーズ船寄港数の増加などを背景に、貸切バスの役割がますます重要となっています。一方で、貸切バス事業者数や保有車両数の減少、運転士不足などにより、繁忙期を中心とした貸切バス不足が課題となっており、団体旅行の需要に十分応えられない場面も生じています。

また、貸切バスの受発注業務は、電話・メール・FAX による個別対応が中心で、空車情報や需給情報が十分に共有されていないことから、旅行会社・バス事業者双方に大きな業務負担が生じています。こうした課題は北海道だけでなく、全国の貸切バス業界にも共通する課題となっています。

本実証業務では、貸切バスの空き情報の可視化と受発注業務のデジタル化を通じて運用ルールの整理と効果検証を行います。また、株式会社コンピュータービジネスが提供する貸切バス基幹システム「バスタータルシステム」と貸切バス受発注プラットフォーム「mobitas」を連携し、受発注業務から基幹業務までをシームレスにつなぐことで、より実運用に即した形で実証を進めます。

これにより、北海道における貸切バスの安定供給や業務効率化を図るとともに、今後の業界全体の DX 推進につなげることを目的としています。

■第 1 部 キックオフ

第 1 部では、国土交通省北海道運輸局 自動車交通部長 相田 悟 様より開会のご挨拶をいただき、本実証業務への期待や取り組みの意義についてお話しいただきました。

続いて、株式会社 JTB より実証業務の概要および目的について説明が行われ、その

後、株式会社 MIRAH00P より、実証業務で利用する貸切バス受発注プラットフォーム「mobitas」の概要や実証内容について説明しました。



■第2部 実証業務説明会

第2部では、国土交通省北海道運輸局 自動車交通部長 相田 悟様、一般社団法人北海道観光を考えるみんなの会 会長 阿部 晃士様よりご挨拶をいただきました。

その後、株式会社 MIRAH00P より約1時間にわたり、「mobitas」の概要やデモンストレーション、今後実施する導入支援のスケジュールについて説明しました。説明会終盤では参加企業との質疑応答を実施し、実証業務開始に向けた活発な意見交換が行われました。



■今後の展開

今後は、参加企業への導入支援を順次実施するとともに、実際の受発注業務を通じた実証業務を進めてまいります。実証期間中は、参加事業者からのご意見や運用結果をもとに、貸切バス受発注業務の効率化や情報共有の円滑化などの効果を検証し、より現場に即したサービスへの改善を図ります。

また、「mobitas」と貸切バス基幹システム「バスタータルシステム」の連携による業務効率化の効果についても検証し、現場の運用に即したサービス改善を進めます。本実証で得られた成果を北海道における貸切バスのデジタル化モデルとして確立し、今

後は全国への展開も見据えながら、貸切バス業界の業務効率化と持続可能な地域交通の実現に貢献してまいります。

■本実証協力企業

バス事業者（13 社）

- ・株式会社ドリーム観光バス
- ・ふらのバス株式会社
- ・北海道中央バス株式会社
- ＜ひがし北海道観光バス手配センター加盟 10 社 [*] ＞
- ・阿寒バス株式会社*
- ・網走観光交通株式会社*
- ・網走バス株式会社*
- ・くしろバス株式会社*
- ・斜里バス株式会社*
- ・十勝バス株式会社*
- ・根室交通株式会社*
- ・北紋バス株式会社*
- ・北海道北見バス株式会社*
- ・北海道拓殖バス株式会社*

旅行会社（6 社）

- ・近畿日本ツーリスト株式会社
- ・クラブツーリズム株式会社
- ・株式会社クレオトラベル
- ・株式会社 JTB
- ・株式会社札幌ドーム
- ・株式会社日本旅行

※バス事業者・旅行会社ごとに五十音順で掲載しています。なお、本実証協力企業は今後追加となる場合があります。

■キックオフ・説明会参加企業

参加企業数：17 社 《内訳：旅行会社 7 社、バス会社 7 社、その他 3 社》

以上